

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	名古屋第4地方合同庁舎	階数	地下1階、地上11階
建設地	愛知県名古屋市中区三の丸二丁目24番	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、防火地域	平均居住人員	1,109 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,185 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店	評価の段階	
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2023年12月20日
敷地面積	6,582 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	2,231 m <sup>2</sup>	確認日	2023年12月22日
延床面積	25,649 m <sup>2</sup>	確認者	



<b>2-1 建築物の環境効率(BEEランク&amp;チャート)</b>	<b>2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)</b>	<b>2-3 大項目の評価(レーダーチャート)</b>
<p>BEE=3.1</p>	<p>30%:☆☆☆☆☆ 60%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆ 100%:☆☆ 100%超:☆</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。</p>	

**2-4 中項目の評価(バーチャート)**

**Q 環境品質 Qのスコア= 4.0**

<p><b>Q1 室内環境 Q1のスコア=3.5</b></p>	<p><b>Q2 サービス性能 Q2のスコア=3.8</b></p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア=4.8</b></p>
----------------------------------	------------------------------------	---------------------------------------

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 4.0**

<p><b>LR1 エネルギー LR1のスコア=4.8</b></p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア=3.5</b></p>	<p><b>LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.5</b></p>
-------------------------------------	--	-------------------------------------

<b>3 設計上の配慮事項</b>		
<b>総合</b>		
<p>「三の丸地区のまち・人・自然を未来に"むすぶ"」をコンセプトに、名古屋城三の丸官庁街の景観との調和、本町通りを軸としたウォークアブルな都市空間、外堀の生態系と呼応する「三の丸の森」、新しい官庁施設としてウェルネスな執務空間を備えた合同庁舎</p>		<p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策として一時帰宅困難者の受け入れスペースの確保、災害時の情報発信が可能なデジタルサイネージの設置</li> <li>・建物屋上に太陽光発電設備を設置</li> </ul>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・執務室のCO<sub>2</sub>濃度を計測し、在室状況に合わせた換気量を供給できるシステムを採用</li> <li>・熱負荷の多い東西外壁面の開口部を最小限にすることで、外部熱負荷を抑える</li> </ul>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の対応として、7日分の上水及び雑用水の確保、緊急時の排水槽の確保</li> <li>・外堀の景観、三の丸の森と連続する木を基調とした温かみのある内装計画</li> </ul>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外堀の豊かな自然環境に調和する樹種により構成した、地域に根付いた緑陰空間の創出</li> <li>・名古屋城の歴史的な景観、三の丸官庁街の外観構成を踏襲した彫が深い横窓の外観</li> </ul>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然通風を誘引し日射を遮るエアキャッチフィン</li> <li>・断熱、遮熱効果の大きいLow-Eペアガラス</li> <li>・高効率機器の採用</li> <li>・人検知センサーを用いた執務室の照明制御</li> <li>・BEMSによる用途別のエネルギー消費量把握</li> </ul>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨水をトイレ洗浄水として利用、節水型衛生器具の採用</li> <li>・リサイクル材を複数採用</li> </ul>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員、来庁者のための駐輪場・駐車場を適切に確保し、周辺環境での渋滞緩和や路上駐車を抑制</li> <li>・シェアサイクルポートの設置の行い、代替交通手段を整備することで自動車の利用を抑制</li> </ul>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

## 重点項目スコア・結果シート

### 名古屋第4地方合同庁舎

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>4.6</b>
LR1	エネルギー	4.8	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.4	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>4.7</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	5.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>3.4</b>
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

## 結果

<b>1. 温暖化対策</b>	評価点 = 4.6
<b>2. 自然共生</b>	評価点 = 4.7
<b>3. 循環型社会</b>	評価点 = 3.4

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。